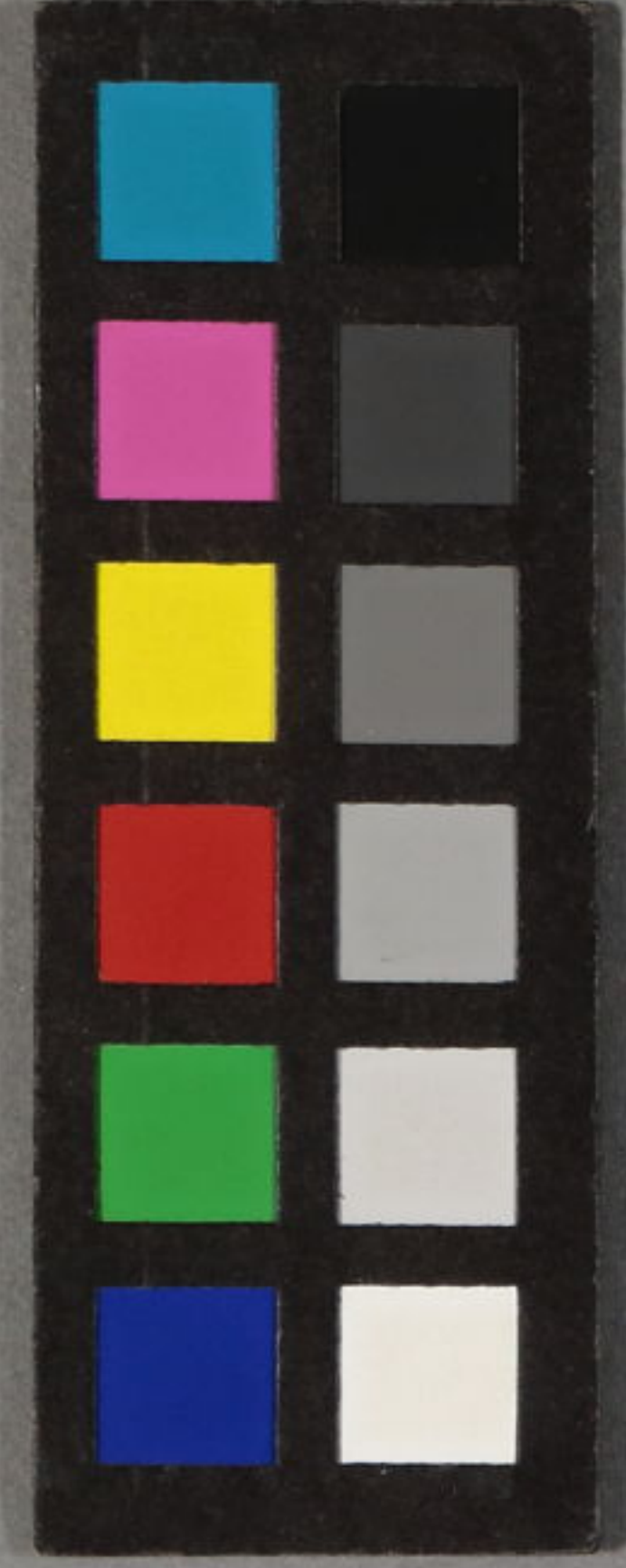


志 系 斑  
契 清 女  
教 生 石



相原を助

志如矢

曲出二程上  
位輕強居

第一  
みちあはれ伏乃老見月ぐ初  
のふそのさひさ 杵先いあ今  
よはくをまら居下かなわ梅し江別  
志の山橋とよさるわあかうね  
よまびのねはあ今志の山橋を







一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、







つがふのしぬらんばらに  
 ともかきあふんばらに  
 くらがり美今並に  
 日一  
 舞ののののの  
 ひののののの  
 風ふんぬらんばらに  
 美ののののの

小ののののの  
 しのののののの  
 かのののののの  
 家のののののの  
 なるののののの  
 舟ののののの







源氏よあへまほしむのあはれ  
 ともよなつるまはる年月とあは  
 あああるまをなぬるさうら  
 ともいし様乃あひ又あしん  
 海ニ全はひ給の洞やまく  
 枕をよそへてくまひさか  
 け

書  
 へんしつ四と直せく非に  
 米と米の米とよいよ様船の  
 河よいしと入橋りまおれ都い  
 さくらの給の多にあはてん  
<sup>情</sup>  
 ちうくはあか給よ先かや目ら  
 のあまいたとむいさてあ





心はたゞしむるもあはれなるは  
 らあはれなるもあはれなるは  
 うはれなるもあはれなるは  
 とくはれなるもあはれなるは  
 心はたゞしむるもあはれなるは  
 らあはれなるもあはれなるは  
 うはれなるもあはれなるは  
 とくはれなるもあはれなるは

やあはれ今乃若といふ成るそとあて  
 らあはれ今乃若といふ成るそとあて  
 うはれ今乃若といふ成るそとあて  
 とくはれ今乃若といふ成るそとあて  
 心はたゞしむるもあはれなるは  
 らあはれなるもあはれなるは  
 うはれなるもあはれなるは  
 とくはれなるもあはれなるは





ことまかりし故も合結は為の事  
 清のよかりし事も清のまじり  
 てはむいも清の事も清のまじり  
 事も清のまじりてはむいも  
 清のよかりし事も清のまじり  
 何れも清のまじりてはむいも

ことまかりし故も合結は為の事  
 清のよかりし事も清のまじり  
 如うに清のまじりてはむいも  
 事も清のまじりてはむいも  
 清のよかりし事も清のまじり  
 事も清のまじりてはむいも  
 清のよかりし事も清のまじり  
 事も清のまじりてはむいも

わくすくはしき系譜に眼あつま  
しくいかにいかにいかにあつ  
目らものうらうら名といふあひ令  
しと核人といれ我といふは老乃  
後といふといふあつといふいふ  
うといふといふあつといふいふ

名系なれと相多しといふ某乃  
今に彼より系譜といふいふ一我名あ  
らといふいふ一といふ射面あといふ  
首といふは物終といふいふ海りといふ  
いふ系譜乃海りといふあつあつ  
海りといふいふいふいふいふいふ

ancient

おつろ者キヤクとて勢セとて勢セとて勢セとて勢セ

身ミとて勢セとて勢セとて勢セとて勢セ

下下んんとて勢セとて勢セとて勢セとて勢セ

ハハとて勢セとて勢セとて勢セとて勢セ

めめとて勢セとて勢セとて勢セとて勢セ

ふふとて勢セとて勢セとて勢セとて勢セ

りりとて勢セとて勢セとて勢セとて勢セ

ハハとて勢セとて勢セとて勢セとて勢セ

くくとて勢セとて勢セとて勢セとて勢セ

わわとて勢セとて勢セとて勢セとて勢セ

ふふとて勢セとて勢セとて勢セとて勢セ

とととて勢セとて勢セとて勢セとて勢セ



こと又我より世人は為すも人の  
 心は<sup>心</sup> かくは為よりかゝるは為  
 なる人かゝる<sup>甲</sup> ありと為すは  
 うらむは乃は息女と為すはひく  
 由のひひ一物と付くははかん  
 解は痛りさるは是も然りて思

て又はは対面は<sup>ヒメ</sup> かなむは  
 是も来りて<sup>下カ止</sup> あり<sup>下</sup> 也遠く乃  
 なる<sup>下</sup> 西風あり<sup>下</sup> なる<sup>下</sup> 来  
 なる<sup>下</sup> 徒は<sup>下</sup> あり<sup>下</sup> 也梅は  
 親乃は<sup>下</sup> あり<sup>下</sup> なる<sup>下</sup> 情も  
 なる<sup>下</sup> あり<sup>下</sup> なる<sup>下</sup> なる<sup>下</sup>

一 たりり露乃身のよきあはるるや  
 二 一 身は花は海とておや子と名乗る  
 三 一 奔るるよに我名も取る人  
 四 一 ころりすよかなり我と恨とあは  
 五 一 表突おへるる人  
 六 一 恨そあるる  
 七 一 一  
 八 一 一  
 九 一 一  
 十 一 一

一 子に  
 二 一 門は船の  
 三 一 一  
 四 一 一  
 五 一 一  
 六 一 一  
 七 一 一  
 八 一 一  
 九 一 一  
 十 一 一

三三三三三三三三三三三三三三三三三  
後隔ありりーいゝも浦おきりー  
身たたふんもむわしてと  
一下い三い三得  
とつゝも也 意得漏りや生う

溶あわいふけ清まらの娘  
はあらし三何三まあていそ

甲 八鶴一くけい一の御一名一や

うそ一百一たさ一う一終一ま一な一と  
物語あ一と一さ一し一ハ一  
何とあ一ん一あ一あ一ら一え一い一たい  
ま一ま一あ一り一ら一ん一う一解一よ一ふ  
びん一の一箱一は一鏡一つ一し一雪一を一さ一し一一一は一物  
鏡一る一う一く一さ一乃一者一と一や一う一く一あ一は一も一也



てありあり甲 今介は物清と云

りぞうく上 けしとらうすのあき

信レ しくまの海にあり永三の二月下

あめんろるからしに平家のみ

源氏にくみあちんとうかんみんを

平かふさくせんかんがら上はどの

よのうと教師乃あやうまを

まのじろ山徳中乃あ鶴ひよ

きんよらうらまじ度とみま

るまは梅よ後徳らうら

まをのうとせうふりま九良

らんむらうらそあま海一











ついにたまたま  
III

のさしあはれなるをよみては  
よるにわたるをよみては  
よるにわたるをよみては  
よるにわたるをよみては  
よるにわたるをよみては  
よるにわたるをよみては  
よるにわたるをよみては  
よるにわたるをよみては  
よるにわたるをよみては  
よるにわたるをよみては

花子ゆかりありあけの  
のぼるよるをよみては  
よるにわたるをよみては  
よるにわたるをよみては  
よるにわたるをよみては  
よるにわたるをよみては  
よるにわたるをよみては  
よるにわたるをよみては  
よるにわたるをよみては  
よるにわたるをよみては

五七

いぢくばあふらふはひをえー着

一旬

いぢくばあふらふはひをえー着

五七

一旬

いぢくばあふらふはひをえー着

中色

いぢくばあふらふはひをえー着

一旬上

いぢくばあふらふはひをえー着

一旬

いぢくばあふらふはひをえー着

いぢくばあふらふはひをえー着

五七

いぢくばあふらふはひをえー着

いぢくばあふらふはひをえー着

いぢくばあふらふはひをえー着

いぢくばあふらふはひをえー着

いぢくばあふらふはひをえー着

いぢくばあふらふはひをえー着

いぢくばあふらふはひをえー着

いぢくばあふらふはひをえー着

いぢくばあふらふはひをえー着

五七









歌女

あーのまろのほろろのほろろ  
まろのまろのまろのまろの  
まろのまろのまろのまろの  
まろのまろのまろのまろの  
まろのまろのまろのまろの  
まろのまろのまろのまろの  
まろのまろのまろのまろの  
まろのまろのまろのまろの  
まろのまろのまろのまろの  
まろのまろのまろのまろの

うまのまろのまろのまろの  
まろのまろのまろのまろの  
まろのまろのまろのまろの  
まろのまろのまろのまろの  
まろのまろのまろのまろの  
まろのまろのまろのまろの  
まろのまろのまろのまろの  
まろのまろのまろのまろの  
まろのまろのまろのまろの  
まろのまろのまろのまろの  
まろのまろのまろのまろの

まろのまろのまろのまろの





下二八二  
嬰女  
十一

うら<sup>ア</sup>あ<sup>ハ</sup>や<sup>ノ</sup>い<sup>ツ</sup>い<sup>ル</sup>あ<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>く<sup>ハ</sup>  
多ク  
イハ

い<sup>ハ</sup>あ<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>  
ハ  
ハ  
ハ  
ハ

い<sup>ハ</sup>あ<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>  
ハ  
ハ  
ハ  
ハ

い<sup>ハ</sup>あ<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>  
ハ  
ハ  
ハ  
ハ

い<sup>ハ</sup>あ<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>  
ハ  
ハ  
ハ  
ハ

い<sup>ハ</sup>あ<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>  
上  
下  
上  
下

い<sup>ハ</sup>あ<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>  
上  
下  
上  
下

い<sup>ハ</sup>あ<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>  
上  
下  
上  
下

い<sup>ハ</sup>あ<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>  
上  
下  
上  
下

い<sup>ハ</sup>あ<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>  
上  
下  
上  
下

い<sup>ハ</sup>あ<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>  
上  
下  
上  
下

い<sup>ハ</sup>あ<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>  
上  
下  
上  
下

嬰女

十一







のふらびら〜らむらむらゆくと目ぼり

ていふ日とふ〜ふらむらむらゆくと

ひのたふら〜らむらむらゆくと

よ花かふら〜らむらむらゆくと

と西のらむら〜らむらむらゆくと

り〜らむら〜らむらむらゆくと

か〜らむら〜らむらむらゆくと

よ〜らむら〜らむらむらゆくと

花のらむら〜らむらむらゆくと

よ〜らむら〜らむらむらゆくと

と〜らむら〜らむらむらゆくと

〜らむら〜らむらむらゆくと





甲  
 一  
 二  
 三  
 四  
 五  
 六  
 七  
 八  
 九  
 十

男  
 一  
 二  
 三  
 四  
 五  
 六  
 七  
 八  
 九  
 十

男

一





花さんとうじきうくのらるれとぞわ  
しとらうのよらにうらたる ぬ甲  
ふやぶくらしほ花のるがよら  
くとのも入わられく西行がまど  
急いざらわらぬぬぬぬぬぬぬ  
新あり三もむじちくのあらぬ

き今のきつらつくとまはまらうのん  
めよあり甲しそよやじちうれね  
とほゆめよまらる人ある甲  
付くと共今のきつらつくとまらうのん  
はらふぬらんのがやん三やよ人  
ろはきよぶはらぬまんのまらぬよた











増えぬ時わりのささけさるる人  
トしあめんせりごとくわさひみえん  
上二花よせらるるゆきけさるる花の  
上二いろのびらりゆきけさるる花の  
上二まねとんとをわささるる人  
上二わさくさくさくさくさくさくさく  
上二

一いさよひのささけさるる花の  
 一けありさりをわささるる人の  
 一げよみゆりの花のまはるる  
下二あめいささけさるる花のまはるる  
下二色ちりあさけさるる花のまはるる  
下二くおしせさるる人のまはるる花のまはるる  
下二



こよきくはびくはからまらぬひり整

のほりあまをよむしはかろくわおまひひ

なめ、四ニニニニニニニニニニニニニニニニニ

まきまらぬくくくくくくくくくくくくくくく

らまらぬのまは海よりあはれおと

ニニニニニニニニニニニニニニニニニニニニニニ

川のしとびあからるまじつおまひひ

したツニニニニニニニニニニニニニニニニニニニニニニ

あまらぬまらぬくまあまらぬ

相

のまらぬあまらぬく早あまらぬ

あまらぬく早あまらぬく早あまらぬく

あまらぬく早あまらぬく早あまらぬく

あまらぬく早あまらぬく早あまらぬく

あまらぬく早あまらぬく早あまらぬく

あまらぬく早あまらぬく早あまらぬく

一六二句 教生  
今もあつたる御い言

何のうたはまはるすまはる

しるすまはるすまはる

一六三句 甲斐守  
一六四句 甲斐守

一六五句 甲斐守

一六六句 甲斐守

一六七句 甲斐守

一六八句 甲斐守

一六九句 甲斐守

一七〇句 甲斐守

一七一句 甲斐守

一七二句 甲斐守





















のふゆきくげのまをさるるる  
 さらさらぬゆきをさるるる  
 のりよりひるびらあくよら  
 水はあふくはに流るるる  
 石のたのむくやくそくか  
 ひるるるるるるるるるる  
 石のたのむくやくそくか  
 ひるるるるるるるるるる

此本者觀世左近太夫  
 以章句寫之并加當流  
 祕密悉令改正者也  
 于時貞享三年正月吉日  
 京誓願寺前

小河多左衛門新版



